

原著 (Article)

バート・ブランケンブルクとフレーベル教育の源流

Following Frobel's footsteps in Bad Blankenburg, Germany

甲斐 仁子*

KAI, Kimiko*

大森 隆子**

OMORI, Takako**

キーワード：バート・ブランケンブルク，フレーベル博物館，フレーベル幼稚園

Key words: Bad Blankenburg, Friedrich-Fröbel-Museum, Kita AWO-Kindergarten
"Fröbelhaus"

はじめに

我が国における近代幼児教育は、明治時代に欧米より導入された幼稚園を起点としているが、筆者らは、導入時から現在に至る過程で生じた変容に関して再考する必要性を見出している¹⁾。そのための手がかりとして、欧米各国の同様事例から学ぶことが大切と考え、本年度は、我が国初の官立幼稚園「東京女子師範学校附属幼稚園（現在のお茶の水女子大学附属幼稚園）」の教育内容や方法に影響を及ぼしたフリードリッヒ・ヴィルヘルム・アウグスト・フレーベル（Friedrich Wilhelm August Fröbel, 1782-1852）が提唱した「幼稚園」（Kindergarten）発祥の地、ドイツのバート・ブランケンブルクを訪れた。

今回の調査は、ドイツのバート・ブランケンブルク（Bad Blankenburg）並びにフレーベル博物館に焦点を当てた。当地では、フレーベル博物館マルギッタ・ロックシュタイン館長（Margitta Rockstein, 1952-）の協力を得て、博物館所蔵の資料や折り紙・製作物の調査を行うとともに、関係施設の見学・説明も受けた。博物館の資料や製作物の検証に関する通訳およびコーディネーターはフレーベル研究家の荘司泰弘氏が担当した。

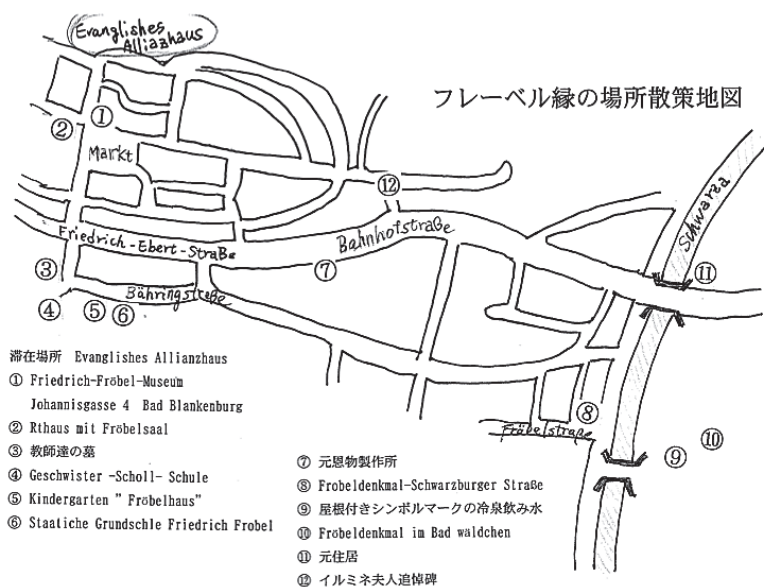
全行程 8 月 11 日～8 月 19 日のうち、8 月 13 日～8 月 15 日をバート・ブランケンブルクでの調査研究とした。フレーベル博物館裏に建設された Evangelisches Allianzhaus に宿泊したが、荘司氏によれば、この場所は当時の幼稚園の畑地も含まれているらしい。バート・ブランケンブルクに 8 月 12 日到着後、午後 3 時よりフレーベル博物館ロックシュタイン館長に挨拶、資料調査の打ち合わせ後、フレーベル関連の周辺施設を探索した。8 月 13 日、午前 9 時から 10 時半まで打ち合わせ後、午前 11 時～午後 3 時までロックシュタイン館長から事前に提出していた質問 10 項目に関する聞き取り

* 東洋英和女学院大学, ** 椋山女学園大学教育学部

椋山女学園大学教育学部紀要 投稿・執筆規程の 2 により査読を行った（2014 年 11 月 11 日受付；2015 年 1 月 12 日受理）

調査、午後3時15分～午後5時30分隣接のフレーベル幼稚園において園長より説明を受け、施設見学。8月14日、フレーベル博物館開館時刻の午前10時～12時まで資料収集、午後1時～午後3時40分まで質問事項に基づくロックシュタイン館長の講義・演習、未公開資料の開示と説明を受け、午後4時～午後6時および午後7時～午後9時まで記録整理とミーティングを行った。8月15日午前中フレーベル博物館にて資料収集後、ドレスデンに移動した。

本稿では、まずフレーベル博物館の所在地であるパート・ブランケンブルクの概況をフレーベルとの関係を軸に報告する。次にフレーベル幼稚園の現況を、ドイツの幼児教育制度の現状を視界に収めつつ述べる。さらに、フレーベル博物館について、その設立経緯、運営基盤、展示内容、企画行事から館長について、現館長を含め歴代の館長に言及する。全体を通してフレーベル教育の源の解明に寄与できればと考える。また資料として、フレーベル博物館の展示資料の中から、人物略歴記述（翻訳に関しては東洋英和女学院大学 飯島千雅子元教授のご協力を賜った）を文末に一覧化して提供する。なお、各所に関しては簡易地図（グーグルマップおよび市の観光マップを基に筆者が作成した）を参照していただきたい。



本研究は、科学研究費助成事業〈基盤研究C〉「諸外国における幼稚園導入過程から見た現代日本の保育―新しい保育史観の試み」（研究代表者：オムリ慶子，研究分担者：大森隆子，甲斐仁子，山田りよ子，連携研究者：荘司泰弘）の支援を受けた。

1. パート・ブランケンブルク (Bad Blankenburg)²⁾

パート・ブランケンブルクは、ドイツを構成する16の連邦州のひとつであるテュー

リンゲン州 (Thüringen) の南区域, ザールフェルト＝ルードルシュタット郡 (Saalfeld-Rudolstadt) に属する住民数およそ7000人の小さな町で、広場や市庁舎を中心に、フレーベルにゆかりのある建造物が点在している。フレーベル散歩道を辿る際、彼の立方体・円柱・球の第二恩物が描かれたシンボルマークを見つけ出す楽しさもある。それらは、石畳の路面や柱には白ペンキで、標識には緑・赤・黄で描かれている。生誕100年を祝って1882年に建てられた右横顔レリーフのフレーベル記念碑 (Fröbeldenkmal) が小さな公園にある。Schwarz 川にかかる橋を渡ると住民の憩いの場となる森林公園があり、木造の屋根で被われた水飲み場には第二恩物を形どった蛇口から温泉水が流れ出ており、さらに公園を進むと同じような形の記念碑 (Spielgaben denkmal) がある。この他フレーベルの住居もバーンホーフ通り (Bahnhofstraße) に存在している。ウェブサイトでは町の紹介・観光名所に幼稚園を提唱したフレーベル由縁の地であることを取り上げ、フレーベルが演説した市庁舎・旧居・記念碑・フレーベル幼稚園・フレーベル博物館など、フレーベル由縁の場所を写真や映像と共に紹介している。また、フレーベルを辿る散策地図をタブレットや携帯に読み取る QRコードも提供されており、2時間もあれば緑豊かな落ち着いた町並みと共にフレーベル教育の歴史の一端に触れることができる。訪れた時期は夏期休暇中で人も少なく休業している店も多かったが、公園の奥の広場には簡易テントが張られた小屋があった。中を覗いてみると山羊の芸当の実演、大人も参加するゲームなど大人も子どもも共に無料で楽しめる地域イベントが開催されており、穏やかな雰囲気が漂っていた。このような町のたたずまいをフレーベル教育研究の視点を含めて、実に良く描いている紀行文の一つとして岸信行氏の文章を挙げることができる³⁾。また、フレーベル教育に関心を抱く日本からの訪問者も多く、ブログにも紹介されている⁴⁾。

このバート・ブランケンブルクは、フレーベルにとって恩物の製作・販売や遊びと活動の施設すなわち「幼稚園」創設など、自身の教育思想を結実させた地でもあった。フレーベルがブランケンブルクに在住した期間は1837年～1844年とされるが、在住地の選択にあたってはドレスデンとの狭間で揺れていたようである⁵⁾。その理由は、ドレスデンでのザクセン王妃と500名の聴衆を前にした講演、彼の教材導入の実現性、家庭への普及の可能性、に加えて1839年2月4日にはドレスデンの多くの親たちによる遊戯施設設立願いが提出されたためである。しかしながら、ブランケンブルク市参事会が1839年4月21日の誕生日に彼を名誉市民としたことでブランケンブルク居住を決定した。彼の遊具製作に関わる教育活動の基本構想は、1837年のフレーベル書簡に見られる教材の系列計画⁶⁾を経て、1837年～1838年にかけて考案した遊具を『普遍主義』に公表するに至る。1838年に「第一恩物・第二恩物」を発表し、1839年～1944年まで定期刊行物『日曜誌』を発刊するなど、発展の基礎が築かれていった。

フレーベルのブランケンブルクにおける教育活動の展開はめざましく、1839年6月～1844年にかけて、子どもの指導者の養成専門教育講座「遊戯と作業の施設」

(Spiel und Beschäftigungsanstalt) を開設し、同養成講習を開催した。6 歳から 11 歳までの 40 名から 50 名の子ども達を、午後 3 時から 4 時 45 分、指導者 1 名につき 4 クラス編成で行った。

1836 年カイルハウ (Keilhau) からブランケンブルクへ移動する準備を開始し、1837 年 1 月 16 日にシュバルツァ (Schwarza) の古い製粉所に居を構えた。1837 年 11 月 15 日、ルードルシュタットの侯爵政庁に施設の許可と保護を要請し、1838 年 4 月 20 日文書で許可が下りると事業に着手した。遊具の原型と図面が完成され、地元の婦人達や職人によって製造が開始されていった⁷⁾。

最初の職業表記となる「幼稚園教師」も誕生した。幼稚園教諭第一号となるイダ・ゼーレ＝フォーゲラー (Ida Seele-Vogeler, 1825–1901) は、カイルハウとブランケンブルクにてフレーベルから幼稚園教師の養成教育を受け、「地下室の上の家屋」で幼稚園教師として、1843 年～1844 年の期間務めた (7 月にダルムシュタットに開設された幼稚園担当のために異動)。

2. フレーベル幼稚園：AWO-Kindergarten “Fröbelhaus”, Die KITA AWO-Fröbelhaus⁸⁾

現フレーベル幼稚園は、バーンホーフ通り (Bahnhofstraße) ／フレーベル通り (Friedrich-Straße) を横切り、教師達の墓地を右手に小川にかかる橋を渡ったペーリング通り (Bähringstraße) に面している。右隣には Geschwister-Scholl-Schule の建物がある。道路沿いのクリーム色の園舎壁にオレンジ色で KOMM LASST UNS UNSERN KINDERN LEBEN と描かれており、外側の低い柵にはフレーベルの球・立体・鳩の飾りがある。さらに、正面玄関左には石で作られた立方体・円柱・球の置物があり、玄関右横の壁面にはエレオノーレ・ヘアヴァルト (Eleonore Heerwart, 1835–1911) によって 1900 年 6 月 28 日に定礎されたと彫られている白い石版がある (1900 年 6 月 28 日に 1700 平方の土地が提供され、1908 年 8 月 6 日、1910 年 8 月に修復改装)。室内はロフト付き木製遊具のある広い空間となっており、各保育室も明るい色使いの環境設定であった。新設の建物内で、園長からフレーベル教育による保育内容を特別な大型写真入りテキスト (非売品) で説明を受けた。2 つの建物は同じ敷地内にあり、広い園庭に、固定遊具、石を敷き詰めた自然道、小山、芝生、砂場、花壇などがあつた。2013 年に同幼稚園を訪問調査した荘司の報告書には、木の配置を含め非常に詳細な園内の様子が荘司自身の園スケッチを通して記されている⁹⁾ (園の室内・保育環境に関しては、同様であったため本稿では割愛した)。

ザールフェルト＝ルードルシュタット (Saalfeld-Rudolstadt, 人口 11.57 万人) の web site では、19 の保育施設が AWO (施設・青少年・地域などの共同体) として位置づけられており、さらに、AWO の内 7 つの施設が、フレーベル教育、モンテッソーリ教育、レッジョエミリア・アプローチなどそれぞれの教育的特徴を挙げてい

る。フレーベル幼稚園はAWOとしてだけでなくDie KITA AWO-Fröbelhausと記載・紹介されている。キタ（KITA）は、キンダーターゲスシュテッテ（Kindertagesstätte）の略語で、総合的かつ長期間に渡り実施する乳幼児・児童保育の昼間児童通園施設である。乳幼児から学童を含む新たな保育施設で、従来の保育所や幼稚園など多様な施設を融合した施設様式である。

既述のザールフェルト＝ルードルシュタット郡の教育サイトでは、フレーベル幼稚園と呼ばれる歴史的建造物に加え、前述した広い多様な眺めの敷地内にある乳幼児から学童の施設も掲載されている（玄関入り口はベーリング通り（Bähringstraße）に面している）。フレーベル幼稚園は、フレーベルが提唱した教育理念に沿って運営されている現代的な教育施設であり、庭を含めた戸外活動、恩物を含めた遊びやゲームなども取り入れられている。フレーベル幼稚園という歴史的専門性を保ちつつ、子どもの自立や自己活動を促し、子どもが責任を持った社会性を有する発達を遂げるように観察・保育し、自然な社会環境において個々の子どもの特性を見出すことを特徴としている。教育課程の焦点は子どもの自己活動・自ら発達を遂げていく子どもにあり、必要な前提条件を創造することにある。多様なゲームを行うと同時に、ゲームを最も重要な教育的手段として子ども達に空間や時間を与える。それらに加えて、遊びとダンスサークル、早期音楽教育の促進、体育教育大との共同活動、作業療法との共同活動なども取り入れている。

連邦制国家ドイツでは、就学前教育／保育の管轄や法規は各州によって異なる。以下に記す内容は、斎藤の論文（2011年）を基にしている¹⁰⁾。16州の内ベルリン、ブランデンブルクなどと共にチューリングン州など6州が、教育官庁の所管となっている。同幼稚園も、チューリングン州教育科学文化省の管轄法規下にある。児童のための昼間施設とサービスについての連邦法の基本的な規定「社会法典第8編（児童青少年援助）」2章3節「昼間施設及び児童昼間保育における児童に対する助成」を基に、チューリングン州教育科学文化省は、チューリングン州の法律「チューリングン児童昼間施設法」（2005年12月16日制定、2010年5月4日最終改正）により実施している。同法には、1歳以上就学まで全日制（平日1日10時間）施設保育の請求権、1歳未満は児童の発達のために必要、養育権者が就業中・就業開始・求職中・職業教育中・学校教育中・大学教育中・職業編入給付受給中の場合には需要に応じた提供義務などが定められている。また、チューリングン州は、連邦に先駆けて2010年8月、1歳からの1日10時間以上の保育請求権を導入。斎藤の分析によれば「3歳未満児の保育率」では、2010年では、16州の内4番目に高い率、43.4%が施設保育・1.7%が児童昼間保育（在宅保育）となっている。

3. フレーベル博物館 Friedrich-Fröbel-Museum¹¹⁾

「地下貯蔵庫から上の家屋」「地下室の上の家屋」（Haus über dem Keller）という表

記¹²⁾をフレーベルの文献に見出すことができるが、それは、ブランケンブルク市参事会が後方の空き地と共にフレーベルに提供した場所である。1839年6月以来「遊戯と作業の施設」(Spiel und Beschäftigungsanstalt)が「地下室の上の家屋」にあった。しかし、1840年6月28日、「一般ドイツ幼稚園」(Allgemein Deutsche Kindergarten)の設立式典は、「地下室の上の家屋」ではなく、ブランケンブルク市庁舎の大きなホールで開催され、フレーベルは幼稚園について講演を行った¹³⁾。

フレーベル博物館に関しては、前述した岸の紀行文をはじめ複数の訪問者による報告・ブログがある。1840年に世界で最初の幼稚園として設立され、1845年からフレーベルに関する資料や恩物・折り紙などを保管展示、さらに、来訪者には講習会などを開いている。ザールフェルト＝ルードルシュタット郡が管理しており経済的には保障されている。当博物館のサイトによって、概要を知ること可能である。教育者を始め保護者などに対する講義・セミナー・ワークショップの開催、フレーベル関連の恩物や著作などの常設展示、幼児・児童に対する遊びの提供が行われている。さらに、地域の美術家・芸術家の作品展示の場としても提供されている。現博物館は、フレーベル教育の周知にとって意義ある場所であり、また、フレーベル研究を積極的かつ持続的に行っている日本にドイツ教育学会会長も注目し、国際的な就学前教育センターを念頭においた第一回日独フレーベル会議(1996年5月1日～3日)の開催地を同博物館とした経緯について小笠原氏は触れている¹⁴⁾。日本の出版社フレーベル館の財政支援に関しても言及している。

今回の訪問では、階段に面した横の入り口から入った3階で講義を受けた。この階には、本稿に示した人物の画像と略歴、恩物・折り紙・著書(日本の翻訳書を含む)などが展示されていた。4階には、フレーベルの着用した軍服、子ども服、当時の幼稚園の外形、活動・移動場所の地図、フレーベルの略歴などが展示されている。2階には、現代の芸術家に開放したスペース、フレーベルの使用した家具や食器の常設展示室、さらに、ワークショップ室などがある。1階は文献・恩物(日本で販売されているサイズではない一回り小さなサイズ)・絵葉書などが展示販売されている。

1982年以降、フレーベル博物館館長を務めているのは、マルギッタ・ロックシュタイン女史(Margitta Rockstein, 1952-)である。チューリンゲンのメーレンバッハ(Mörlenbach)に誕生し、社会教育専門学校の幼稚園教師養成(1958-1968)修了後、ルードルシュタットの幼稚園長(1970-1982)、ライプチヒ大学で教育心理学を学び(1976-1979)、1982年以降当博物館館長となり、フレーベルに関する著書・論文執筆の他、フレーベル手稿の収集および学問的改訂に着手しており、現代においてフレーベルに最も精通する人物として知られている¹⁵⁾。彼女自身によるブランケンブルクにおけるフレーベルと博物館の紹介は、前述した第一回日独フレーベル会議および日本ペスタロッツイー・フレーベル学会第14回大会記念講演記録として日本語で収録されている¹⁶⁾。今回の調査では、ロックシュタイン館長に、以下の(1)～(10)の項目を質問した。事前に、オムリ、大森、甲斐、山田によって出された内容を、荘司泰弘がロッ

クシュタイン館長に交渉したものである。

- (1) ドイツのキンダーガルテン養成施設でどのような手技を教えていたのか。
- (2) 諸外国からはどのような人がどのような目的で派遣されたのか。
- (3) フレーベルは折り紙に適した年齢を何歳頃と考えていたのか、また、どのようにして遊んでいたのか。
- (4) フレーベル保育者養成の各年別の概要（主要な内容、学期と力点）のリストに関する情報を知りたい。
- (5) 各養成講座ごとの参加者の完全版名簿を入手したい。
- (6) 各養成施設のカリキュラム資料収集。
- (7) 養成施設で使用されていた言語の種類を知りたい。
- (8) 当時の養成学校での保育者の認可基準と認可者数が知りたい。
- (9) 日本へフレーベル教育を導入した4名の外国人、松野クララ（Clara Louise Zitelmann, 1853-1931）¹⁷⁾、ゲルトルド・キュックリッヒ（Gertud E. Kücklich, 1897-1976）、ソフィア・アラベラ・アルウイン（Sophia Arabella Irwin, 1883-1957）、アニー・リヨン・ハウ（Annie Lyon Howe, 1852-1943）の養成学校および修了年の情報確認。
- (10) カトリックの神父がフレーベル教育法に関して知っていた事実、養成を受けた事実の確認。

この10項目については、一部を除いて十分な回答は得られなかった。すでに村松が指摘しているような「1821年-1836年の広告、時間割、生徒名簿など」の資料文献も見出すには至らなかった¹⁸⁾。その原因を探り、今後に生かしたい。

訪問したフレーベル博物館は、今回特別に公開してくださった非常に多くの折り紙資料など多くの資料が保存されており、研究的に意義ある場所となっている。この博物館維持と設立に貢献してきた人物として、前述した現幼稚園玄関横石版にも記されているエレオノーレ・ヘアヴァルト（Eleonore Heerwart, 1835-1911）およびヨハンネス・プリュファー（Johannes Prüfer, 1882-1947）を挙げることができる（本稿人物略歴一覧を参照のこと）。

ヘアヴァルトは、アイゼナハ（Eisenach）で誕生し、同地で没した。カイルハウの教師養成所にてルイーゼ・フレーベル＝レーヴィン（Louise Fröbel-Levin, 1815-1900）に師事した後、ロンドンなどで幼稚園教育に携わり、バート・ブランケンブルク・フレーベル協会を設立した。さらに、バート・ブランケンブルクにフレーベル博物館を擁するフレーベルハウスを建設することを提起したが、実現に至らない間、アイゼナハにフレーベル博物館を開設し、貴重な文献資料など所藏品収集にあたった。ルイーゼ・フレーベルが、ヘアヴァルトに贈った遺品は彼女の死後同館に贈呈される。

プリュファーは、ライプツィヒに誕生し、1930年代以降バート・ブランケンブルクで過ごし、この地で没するまでフレーベル博物館の維持と発展に寄与した人物である。博物館は、1942年-1944年に女性の裁縫教授場、1945年短期間旧ソビエト軍の

将校部屋、また、その後託児所として使用され、1945年5月1日にフレーベルハウスの幼稚園再開に至るが、その歴史的変遷過程においては、価値あるフレーベルの手書き原稿や文献が散逸したことも指摘されている。しかし、プリュファーは、フレーベル博物館の改編に尽力し、1911年ヘアヴァルト死去に伴いアイゼナハフレーベル博物館の所蔵物を移動し、実在する文書の報告記録集を作成するなど、40年以上フレーベル博物館の運営に従事した。1947年初頭には、チューリングン州文部省がワイマールに設立したフレーベル研究所の指導者エリカ・ホフマン（Erica Hoffmann, 1902–1995）の研究活動を援助した。人物略歴一覧を参照すれば、ホフマンは1950年からその死までペスタロッツィ・フレーベル協会の会員であり、60年間ペスタロッツィ・フレーベル協会会報の編集に携わり、70を超えるフレーベル資料の出版を行うなど20世紀の最も重要なフレーベル研究者と評されている。

まとめと課題

今回の調査を通して、わが国の幼稚園教育に多大な影響を与えたフレーベルゆかりの地であるパート・ブランケンブルク並びにフレーベル博物館について我々の視点から明らかにすることができた。新資料の発見には至らなかったものの、各人が研究を進める上で有益な資料確認を行うことができた。また、フレーベル博物館館内掲示資料の中から、人物略歴に関する記述を収集し、その日本語訳を〈人物略歴一覧〉として、文末に掲載した。この資料提供は、関係研究者に対し、ささやかな貢献を成し得たのではないかと考える。また、地図と所在場所の提示は最新情報として活用していただきたい。

実際に現地を散策したことにより確認し得たことは、眠っていた感覚が研ぎ澄まされ、研究的思考を深めたということである。すなわち、実際に目で見て、足で歩いて、距離・時間・自然や文化といった空間的環境を体感することにより、過去教育活动の展開や状況を推測可能にすることが分かったのである。これは想定外の収穫であった。次回への成果としてこの点を生かしたい。

また、一区域に170年も前の歴史的建築物と現代的建物とが違和感なく併存していること、内容的にもその根本精神が継承され、現代に相応した形に姿を変えつつ機能していることに驚かされた。それはフレーベル博物館内に当時のままの恩物・手技の品々が静寂さとともに保存されている場所と、少し様相を変えた恩物・手技の製品が今の子どもたちに活発に遊ばれている場所があるということとも重なる。文化の創造と普及、導入と継承・発展の一つの具体的な姿を見たように思う。それはドイツという国柄の故か、ヨーロッパという地域全体にいえることか。

次回以降、十分な準備作業を行うとともに、資料・文献の収集や現地での聞き取り調査に限定することなく、現在存続している環境や状況の体感を通して異なる時代や文化をよみ取る、という新たな研究的要素も視野に入れながら実行したい。

謝 辞

調査光景並びに館内資料に関する撮影を許可して下さったフレーベル博物館マルギッタ・ロックシュタイン館長に深く感謝いたします (Frau Rockstein, der Leiterin von Friedrich-Fröbel-Museum, möchte ich hier für ihre Hilfe meinen herzlichsten Dank ausdrücken.)。本稿に資料として掲載されている人物略歴一覧の翻訳に関しては、東洋英和女学院大学飯島千雅子元教授のお手を煩わせた。飯島元教授に深く感謝申し上げたい。

■注

- 1) 以下の共同研究がある。
 - ①山田りよ子, 甲斐仁子, 大森隆子, オムリ慶子, 青木久子「外国の教育方法を日本に導入するときの課題と検討 (その1)」『藤女子大学紀要第II部』第50号 2013年 pp. 103-117。日本保育学会第65回大会自主シンポジウム内容を加筆修正し論文化した。
 - ②山田りよ子, 大森隆子, オムリ慶子, 甲斐仁子「外国の教育方法を日本に導入するときの課題と検討 (その2) —我が国の保育者養成と現職教育の現状から—」『藤女子大学紀要第II部』第51号 2014年 pp. 109-122。日本保育学会第66回大会自主シンポジウム内容を加筆修正し論文化した。
- 2) Stadt Bad Blankenburg <http://www.bad-blankenburg.de/> 2014年11月1日閲覧。
Bad Blankenburg <http://www.mygermancity.com/bad-blankenburg> 2014年11月1日閲覧。
- 3) 岸信行「フレーベル『ゆかりの地』今と昔—パート・ブランケンブルクとカイルハウ—」『中央大学論集』第34号 2013年 pp. 127-146
- 4) 日本から訪れた人達による以下のようなサイトやブログが公開されている。以下、2014年11月1日閲覧。
 - ①北見のぞみ幼稚園「2008年1月ドイツ フレーベル博物館へ」フレーベルの Kindergarten という言葉に込めたイメージを保育に反映している園であり、幼稚園生活20周年を記念して、園長夫妻が現地を訪れ2008年に記念の像を贈呈している。
 - ②保育@百町森 幼児教育の原点を訪ねる
以下3件に関するサイト <http://www.hyakuchomori.co.jp/hoiku/blog/>
(1)フレーベル博物館 <http://www.hyakuchomori.co.jp/hoiku/cat1043/011134.html>
幼児教育の原点を訪ねる(2)フレーベルの生家
幼児教育の原点を訪ねる(3)ドレスデンで研修とワークショップ
幼児教育の原点を訪ねる(4)ドレスデンのフレーベル幼稚園を見学
<http://www.nozomikg.com/index.php?topic=news&page=90>
 - ③朝日新聞社 (2009年7月6日)「ドイツの暮らしと子ども達 by 朝日出版社 フレーベル幼稚園を訪ねて」<http://leben-und-kinder.cocolog-nifty.com/blog/2009/06/post-2930.html>
- 5) ヨハネス・プリュウファー著 (乙訓総廣嶋龍太郎訳)『フリードリヒ・フレーベル—その生涯と業績—』東信堂 2011年。
- 6) 同上書 p. 91。
- 7) 同上書 p. 95。
- 8) AWO-Kindergarten Froebelhaus in Blankenburg http://www.awo-saalfeld.de/kinder_jugend_familie/kitas/awo_kindergarten_froebelhaus.html 2014年11月1日閲覧。
- 9) 庄司圭子「AWO キンダーガルテン『フレーベルハウス』の教育環境が幼児の心身の発達に及ぼす影響についての一考察」『神戸女子短期大学論攷』58巻 2013年 pp. 23-36。
- 10) 斎藤純子「ドイツの保育制度—拡充の歩みと展望—」『レファレンス』(国立国会図書館調査及

- び立法考査局) 2011年 pp. 2-62。
- 11) Friedrich-Fröbel-Museum <http://froebel-museum.de/pages/de/startseite.php> 2014年11月1日閲覧。
- 12) 前掲(岸信行), および前掲書, ヨハネス・プリュウファー著『フリードリヒ・フレーベル—その生涯と業績—』に記載された表記を用いた。
- 13) 前掲書 ヨハネス・プリュウファー著『フリードリヒ・フレーベル—その生涯と業績—』p. 118。
- 14) 小笠原道雄「第一回 日＝独フレーベル会議について」『教育哲学研究』第74号 1996年 pp. 53-55。
- 15) マルギッタ・ロックシュタイン(通訳木内陽一)「バード・ブランケンブルクのフレーベル幼稚園」『人間教育の探求』第9号 1996年 pp. 1-9 人物紹介p. 9。
- 16) 岸信行「バード・ブランケンブルクのフレーベル博物館について」『中央大学論集』第18号 1997年 pp. 43-52。
- 17) 松野クララに関しては以下を参照した。
原田朋香「松野クララの経歴—先行研究の整理に基づいて—」『武庫川女子大学大学院教育学研究論集』第5号 2010年 pp. 119-128。
宮里暁美・立浪澄子・小林恵子編集『松野クララを偲んで—顕彰碑建設の記録—』ゴト印刷 2011年。
- 18) 松村納央子「F. フレーベル教授・カリキュラム構成に関する文献調査—未刊行資料に着目して—」『美作大学・美作大学短期大学部紀要』vol. 50 2005年 (pp. 57-63)。p. 59。

資料 人物略歴一覧（飯島千雍子訳。フレーベル博物館展示を2014年8月15日に筆者がロックシュタイン館長の許可を得て撮影した。）



アウグスト・ケーラー
(August Köhler, 1821-1879)

- 1821年9月9日 テューリンゲンのトゥラスドルフ（Trassdorf Thüringen）に生まれる。
 - 1879年4月22日 ゴータにて死去。
 - 1838年-1845年 ゴータ師範学校（Lehrerseminar）で学ぶ。
 - 1851年 私立学校を創立。1854年、幼稚園を併設（創設）する。
 - 1852年 第4回全国教員大会ゴータでのF. フレーベルとの出遭い（遭遇、邂逅）は強烈な印象をA. ケーラーに遺した。
 - 1857年 ゴータにて幼稚園教師（女性）養成所を開始する。
 - 1860年 雑誌“Kindergarten”を共同創始、1873年まで編集長を務める。
 - 1864年 無資産両親のための最初の市民（Bürger 平民）幼稚園を設立、ゴータにて女性の小学校教師養成を開始する。
 - 1869年 ドイツフレーベル協会座長（テューリンゲン）を引き受ける。これが発展し、1873年、ドイツフレーベル協会（連合）DFVとなる。協会は、おおよそ20年間、彼らの特化したフレーベル理解をもってドイツの幼稚園教育運動に支配的な影響を与えたテューリンゲンの学校教育者A. ケーラー、F. シュミット、そしてF. ザイデルによって統括指導された。雑誌“Kindergarten”はその際、彼らの公的な手段であった。
 - 1872年 A. ケーラーの教育集団（複合体）が包含する団体：幼稚園、小学校、高等女学校、実業補習学校（成人教育）、幼稚園女性教師及び小学校女性教師養成所。
 - 1875年 A. ケーラーは没するまでDFVの座長（議長）の責任を負う。
- 彼はフレーベルの教育について多数の書物を著した。彼の広範囲に及ぶ不屈のフレーベル理解（フレーベル傍近くに居た）は、幼稚園での真正な実践とその著作に結実している。



ヘンリエッテ・シュラーダー＝ブライマン
(Henriette Schrader-Breymann, 1827-1899)

- 1827年 9月14日 ニーダーザクセンのマルムにて生まれる。
- 1899年 8月25日 ベルリンにて死去。F. フレーベルの甥又は姪の娘。
- 1848/49年 カイルハウ、ドレスデン、パート・リーベンシュタインにてフレーベル主宰の幼稚園教師（女性）養成コースを受講する。
- 1856年 Watzum ヴァーツムに自然科学、芸術、そして言語の科目を提供する女子寄宿学校（教育を提供する女子寮）を創設する。
- 1857年 ブライマンはマーレンホルツ＝ビューローの勧めにより、ヴァーツムにフレーベルコースを開設する。
- 1858年 ブリュッセル滞在。フレーベルの原則による託児所、孤児院と初級クラスのための教授法の教育を学ぶ。
- 1860年 マーレンホルツとブライマンは、スイス（ベルン、ローザンヌ、ジュネーヴ）にてフレーベル教育の普及講演をする。
- 1864年 女子寄宿舎、Wolfenbüttel ヴォルフエンビュッテルに移転。
- 1866年 Wolfenbuttel にて「教育同盟（協会）Vereins für Erziehung」を設立する。
- 1872年 ベルリン-Anhalter 鉄道の幹部カール・シュラーダーと結婚。
- 1874年 ベルリンにペスタロッツィ・フレーベルハウス（幼稚園、乳児保育者、幼稚園教師、家政（家事経済管理）養成教育を抱合する）を創設する。
- H. シュラーダー・ブライマンはペスタロッツィ教育に通じ、家庭のモデルを押し花をつくるように、写生・模写するような学校教育に反対する教育改革の動きにも通じていた。彼女の幼稚園教育は家庭的、実生活に即した、日常の実践、幼稚園での子どもの行動、遊び、仕事が主題的に、毎月の課題に集中するよう働いた。
- H. シュラーダー・ブライマンは、幼稚園を新しく社会教育的にすることを起草した。



ベルタ・フォン・マーレンホルツ＝ビューロー
(Bertha von Marenholtz-Bülow, 1810–1893)

- 1810年10月5日 ブラウンシュヴァイクで生まれる。
- 1893年1月9日 ドレスデンにて死去。
- 1849年 パート・リーベンシュタインにてフリートゥリヒ・フレーベルとの出会う。B. マーレンホルツ＝ビューローはフレーベルの信望者、精神的パートナーとなる。
- 1854年–1860年 西ヨーロッパにて幼稚園教育の普及宣伝活動を展開する（イングランド、フランス、ベルギー、オランダ、スイス）。
- 1860年 B. マーレンホルツ＝ビューローは彼女の関わっている活動を通して、プロイセンにおける幼稚園禁止令を取り消させる。
- 1861年 ベルリンに最初の国民幼稚園を設立。
- 1861/1862年 『現代教育』と1873年『続刊』、『全国教育協会』の出版、編集にあたる。
- 1863年 最初の教育協会「家庭と国民教育協会」を創立する。
- 1861年–1871年 ドイツにフレーベル主義幼稚園を紹介するため、フレーベル運動を促進するため集中的に尽力する。ベルリンにて幼稚園教師養成のための研究所を創立、所長を務める。
- 1871年 ドレスデンにて普遍的教育協会創立。
- B. マーレンホルツ＝ビューローは、オーストリア＝ハンガリー地方における就学前教育制度の更なる発展に感化を及ぼした。また、ロシアにおけるフレーベル継受に影響を及ぼした。
- ビューローによって、フレーベルは世界的に最も著名かつ最高に賞賛されたドイツの教育家となった。
- ビューローはわがままで権威主義的人格とみなされている。彼女は量においては広大な、質においては尊大な、フレーベル教育学の提示を生み出した。彼女は彼の教育学を民族的（国家的）方向に強調し、労働教育学的に一般教養へと方向づけた。
- ビューローは19世紀の後半世紀におけるフレーベル運動の重要な人物である。



エレオノーレ・ヘアヴァルト
(Eleonore Heerwart, 1835-1911)

- 1835年2月24日 アイゼナハに生まれる。
- 1911年12月19日 アイゼナハにて死去。
- 1853年 カイルハウにてルーズ・フレーベルより幼稚園教師修業。
- 1854年-1860年 家庭教師、教師として Gut Storkau a.d.Elbe（エルベ河沿いのグート・シュトルカ）
Rittergut Billberge（リッターグート・ビルベルグ）で働く。
- 1861年-1883年 大英帝国に滞在。
- 1861年 ロンドンにて幼稚園園長を務める。
- 1862年 私立教育施設長（ダブリンにある幼稚園と学校）を務める。
- 1874年 ロンドンにてフレーベル教育のための婦人（女性）教師の養成とフレーベル協会創立。
- 1875年-1883年 ロンドンにある Stockwell College シュトックウェル カレッジ（教師養成学校—研究所）所長となる。
- 1892年 E.Heerwart は全ドイツ幼稚園教師（女性）同盟（協会、組合）をアイゼナハに創立。
協会の雑誌『Berichte』を刊行。
- 1899年 パート・ブランケンブルク フレーベル協会設立、議長。これらの働きで E.ヘアヴァルトはパート・ブランケンブルクにフレーベル博物館を擁するフレーベルハウスを建設することを提起した。フレーベル夫人ルイーゼ・フレーベルが、E.ヘアヴァルトに贈った遺品は彼女の死後贈呈される。



エリカ・ホフマン
(Erica Hoffmann, 1902–1995)

- 1902年 3月28日 西プロイセンのノイタイヒェンヴァルトに生まれる。
- 1995年 2月 5日 ゲッティンゲンにて死去。
- 1923年–1927年 ゲッティンゲンにて数学、自然科学分野の基礎（予備）を研究，1924年より H. ノールのもとで教育学を研究。
- 1928年 学位申請論文「教育学における弁証論的思考」により博士の学位を取得。
- 1928年–1947年 ベルリンのペスタロツィ・フレーベルハウス 1 社会教育研究所にて教育学，心理学科教師を務める。
- 1932年 フレーベル研究を開始する。ヘレーネ・クロスターマンを通して進展させる。
- 1938/1939年 Eduard Spranger の援助によりフレーベルの「ベルリン遺産」“Berliner Nachlass”を研究する。
- 1947年 ワイマールへ移住。フレーベル研究組織（機関）の設立。
- 1947年 秋 イェナ大学幼児・小学校（4年生まで）教育学特任教授として招聘される。
- 1949年–1951年 リューネブルク教育大学（西ドイツ）専任講師となる。
- 1951年–1966年 カッセル福音教会フレーベルセミナー（研究所）所長を務める。

エリカ・ホフマンは1950年からその死までペスタロツィ・フレーベル協会の会員であり，60年間ペスタロツィ・フレーベル協会会報の編集に携わった。彼女は多様な方法でフレーベルの仕事を，いかに解釈するか，編集解明した。彼女の70を超えるフレーベル重要出版をもって，中でも，フレーベル関連の17冊は，精神科学的に，感銘を与えるものであり，教育学者エリカ・ホフマンが，20世紀の最も重要なフレーベル研究者であることを明らかにするものである。



グスタフ・ヴィルヘルム・シュタインアッカー
(Gustav Wilhelm Steinacker, 1809–1877)

1809年3月1日 ウィーンで生まれる。

1877年6月7日 ワイマール近郊のブットウシュテット Buttstädt/Weimar にて死去。

哲学と神学をプレスブルクとケスマルクで学ぶ (Preßburg und Rosenau, studierte Philosophie und Theologie in Käsmark, Wien und Halle)

婦人（女性）師範学校長教育研究所長。

ハンガリーの Debresin で女子師範学校長，ハンガリー・ドイツの Triest で牧師。

1853年 ワイマールの高等女学校長。

1857年 教会監督職への招聘，Buttstädt/Weimar で牧師。

1859年 幼児孤児院を Buttstädt に創立する。

シュタインアッカーは19世紀40年代の初めから雑誌『Kindergarten』にF. フレーベルとの書簡交換を発表しフレーベル教育学を論理のためではなく，精神のゆえに弁護してきた。



ヘレネ・ルイーゼ・クロスターマン
(Helene Luise Klostermann. 1858-1935)

- 1858年 7月29日 メッシーナ（シチリア）に生まれる。
 - 1935年 5月27日 プットゥブス / リューゲンにて死去。
 - 1879年 ボンにて教師試験を受ける。
H. クロスターマンはボンの叔母の私立学校で教える。
 - 1882年 ベルリンへ移住する。
 - 1887年-1896年 H. クロスターマンはロンドンにあるフレーベル教育研究所，幼稚園と小学校，そして幼稚園教師（女子）養成学校が併設されたジュリー・サリス・シュヴァーベの秘書として働く。
 - 1898年-1922年 ボンの私立学校（クロスターマン学校）で指導する。この学校は1903年以來，コメニウス・セミナーとして教師と幼稚園教師の養成を行っていた。
 - 1907年 ドイツ・フレーベル協会の幹部となる。
 - 1918年-1923年 ドイツ・フレーベル協会議長。1935年まで名誉議長を務める。
 - 1927年 H. クロスターマンは蔵書と F. フレーベル手書き遺品の整理のため，バート・ブランケンブルクのフレーベル博物館に勤務。
今日も使用されている索引帳を作成した。
- H. クロスターマンのフレーベル継受は創造的遊びの改革教育的-発達心理学的解釈評価を基にしている。彼女の著作は学校教育研究と F. フレーベルの遊び理論の分析の2つの刊行を包含している。



ヘンリエッテ・ゴールドシュミット
(Henriette Goldschmidt, 1825–1920)

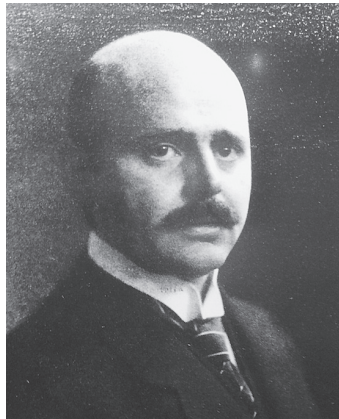
- 1825年11月23日 ポーゼンのクロトコシンに生まれる。
- 1920年1月30日 ライプツィヒにて死去。
- 1865年 全ドイツ婦人協会設立発起人の一人。第一回ドイツ婦人会議組織委員長となる。
- 1871年 家庭と国民教育のための協会をライプツィヒに創立する。
- 1872年 幼稚園教師（女子）養成学校設立。最初の国民幼稚園をライプツィヒに開園。その後、多くの幼稚園ができた。
- 1878年 婦人のための女学校設立する。
- 1904年 H. ゴールドシュミットは新『母と子の愛撫の歌』を刊行する。その中で彼女は、フレーベル幼児教育学の天体哲学的基礎を文化史的に新たに解釈している。
- 1909年 H. ゴールドシュミットは、「私がフレーベルから学んだこと、そして教えたこと」として、フレーベル教育体系の文化史的基礎づけを提示した。
- 1911年 ドイツ最初的女子単科大学を、ライプツィヒに開学する。1947年からHenriette Goldschmidtの名を冠し、1991年、社会教育学専門学校として80年存続する学校が始まった。
- 1992年 職業学校のセンターの変革を促す。ライプツィヒ市の11の社会組織からなる職業的学校センター。

ヘンリエッタ・ゴールドシュミットは統合した女性の教育とその就業のために尽力した。その際、文化的問いとして婦人解放を理解した。そして家庭と国民のための女性の文明的仕事としての母親の教育使命と理解した。



イダ・ゼーレ＝フォークラー
(Ida Seele-Vogeler, 1825-1901)

- 1825年4月20日 ノルトハウゼンに生まれる。
- 1901年10月15日 ノルトハウゼンにて死去。
- 1843年 カイルハウとパート・ブランケンブルクにて、F. フレーベルから幼稚園教師の養成訓練を受ける。
- 1843/44年 パート・ブランケンブルクの世界で最初の幼稚園“地下室の上の家屋”“Haus über dem Keller”で幼稚園教師として就労する。
- 1844年 イダ・ゼーレ＝フォークラーはフレーベル夫人の仲介でダルムシュタットにあるJ. Foisingに指導される幼児学校に勤める。
- 1851年 I. ゼーレはベルリンにある最初の国民幼稚園の指導責任者となる。ビューローによって設立された幼稚園教師養成研究所でも教える。
- 1864年 ベルリンにて学校長のフォークラーと結婚。
- 1879/80年 ノルトハウゼンに移転する。
- イダ・ゼーレ＝フォークラーは最初の職業表記となる「幼稚園教師」と呼ばれた最初の人である。
- 彼女の特化したフレーベル理解はフレーベルから直接教えを受けた（指導された）ことから得たものである。
- 彼女はドイツフレーベル協会の名誉会員であり、F. フレーベルの愛すべき生徒であった。



ヨハネス・プリュファー
(Johannes Prüfer, 1882-1947)

- 1882年 9 月 4 日 ライプツィヒに生まれる。
1947年 6 月 9 日 パート・ブランケンブルクにて死去。
1897年-1903年 グリンマ Grimma 師範学校に学ぶ。
1904年-1906年 エルツゲビルゲ（レスニッツ Lossnitz 近郊のアファルター Affalter）に
助教諭として勤務する。
1909年-1910年 ザールフェルト Saalfeld 近郊のヴィッケルスドルフ Wickelsdorf の高等
実科学校（古典語を含め数学、工学などを中心とする学校）の教員を
務める。
1909年 学位論文「1836～1842におけるフリードリヒ・フレーベルの教育学
的志向」
1910年-1911年 ドレスデン、ミュラー・ゲレネック Müller-Geleneck 実科中学校教員。
1911年-1921年 ライプツィヒ、女子大学（婦人のための単科大学）講師を務める。
J. プリュファーは教育学研究所長、大学の教育学博物館、教育学研究
（経験的研究、実践研究）文書館構築にあたる。
1914年 J. プリュファーは大学行政管理長となる。
1917年 ライプツィヒに、ドイツ家庭教育振興協会設立、協会の委任で季刊誌
『両親と子ども』を年4回発行する。
1921年-1933年 ライプツィヒ第三市立高等女学校及び9年制上級高等女学校長となる。
1933年 J. プリュファーは教職を依願退職し、以後30年間パート・ブランケン
ブルクに暮らす。
1945年 7 月 Dr. ペーター・ペーターセン教授は、J. プリュファーに、イェナ大学に
併設するフレーベル研究所の構築を委任。

J. プリュファーは、Bähringstrasse にあるパート・ブランケンブルクのフレーベル博物館
の実質的形態の構想に彼の死に至るまで尽力、長年所長を務めた。

彼は、実在する文書の報告記録集、エレオノーレ・ヘアヴァルト Eleonore Heerwart の死
後（1911年）のアイゼナハ・フレーベル博物館所蔵品の統一に尽力した。

J. プリュファーによって、原典批評に基づいた伝記のフレーベル研究が始まった。

彼のフレーベル継受は以下の領域に及ぶ。

- ・フリードリヒ・フレーベルの原典批評的伝記
- ・多数のフレーベル著作出版
- ・パート・ブランケンブルクのフレーベル博物館の公的職務

J. プリュファーは20世紀前半世紀のフレーベル研究の秀でた弁護者である。



ルイーゼ・フレーベル＝レーヴィン
(Louise Föbel-Levin, 1815-1900)

- 1815年4月15日 オースターローデ（ハルツ）にて生まれる。
- 1900年1月4日 ハンブルクにて死去。
フレーベルの2番目の夫人
- 1845年 カイルハウの一般ドイツ教師養成所に移住。
- 1847年 F. フレーベルから幼稚園教師教育を受ける。
- 1848年8月 ルードルシュタットにてフレーベルによって始められた教師大会に参加する。
- 1848年9月 レンズブルクのコッセル家個人教師となる。
- 1849年 パート・リーベンシュタインで最初の幼稚園教師養成所長,
1850年からはマリーエンタール（テューリンゲン）で所長を務める。
- 1851年 ペンテコステ（聖霊降臨日）に F. フレーベルと結婚。
- 1852年6月 F. フレーベル死去。
幼稚園教師教育施設のカイルハウへの移転。
- 1854年 ハンブルクへ移住する。
ブラウクネヒトグラーベン Brauknechtgraben の第5市民幼稚園の監督
（指導的地位）として幼稚園教師の養成にあたる。
- 1860年 ハンブルクにて私立幼稚園創立。
- 1869年 サント・ペテルブルクに滞在。
F. フレーベルの幼稚園教育の普及（宣伝）にあたる。
- 1884年 ハンブルクに最初の国民幼稚園を創立する。

ルイーゼ・フレーベルは膨大な F. フレーベルの手書きの遺品を保管維持した。
19世紀の70年代、彼女はフレーベルの手紙の多数の写しを作成した。そのことによって、
遺品はかなり増えた。彼女は、パート ブランケンブルクのフレーベル博物館に家具、
F. フレーベルの多数の手紙、文書を寄贈した。それらの文書所蔵は、フレーベル研究にお
いて、ブランケンブルク遺産（BIM）として知られている。
ルイーゼ・フレーベルはフレーベル精神に基づく幼稚園の発展のために労し、ロシアとア
メリカでの幼稚園設立に影響を及ぼした。



ミンナ・シェルホルン（Minna Schellhorn, 1829–1910）によるワイマール幼稚園の教師養成所（Bildungs-Anstalt für Kindergärtnerinnen in Weimar）

この養成所は、婦人（既婚の女性）と若い女性（未婚の娘）が、フリードリッヒ・フレーベルの教育の原理と、年少の子どもたち指導の理論的かつ実践的方法を学習し、また、幼稚園教諭、家庭における、より幼少の子どもたちのための教師になる修養をする機会を提供するものである。

実践教育は1851年以来フリードリッヒ・フレーベルの原理に従って導かれており、多くの子どもたちが通う幼稚園に相応しい機会を提供している。

その他の授業内容は、以下のとおりである。

- 1) 教育学 *Padagogik*
- 2) 人間学 *Menschenkunde*
- 3) 心理学 *Seelenlehre*
- 4) 国語（ドイツ語）*Deutsch*
- 5) 歴史 *Geschichte*
- 6) 自然 *Naturkunde*
- 7) 文学 *Literatur*
- 8) 描く *Zeichnen*
- 9) 歌う *Singen*
- 10) 幼稚園の活動（仕事）と遊び、理論と実践
Beschäftigungen und Spiele des Kindergartens nach Theorie und Praxis.
- 11) 家庭における初等授業の教授（指導法）入門
Anleitung zur Ertheilung des Elementarunterrichts in Familien.